



The Max Planck Center Seminar Series

演者: Dr. Jean Pieters, Ph.D..

Professor,

Biozentrum, University of Basel, Switzerland

演題: Regulation of Cell Surface Signaling in
Leukocytes and Amoeba by Coronin Proteins

Pieters 教授は、オランダのUniversity of Maastrichtで博士取得後、Netherlands Cancer Instituteでポストドク研究員として行ったクラスII MHCの細胞内移動に関するお仕事が高く評価され、1996年よりバーゼル免疫学研究所のメンバーとなりました。2002年よりBiozentrum, University of Basel の教授に就任されておられます。

Pieters教授はマイコバクテリア感染に対するhost defenseの機構について研究されており、tryptophan-aspartate containing coat protein (TACO)/ CORONIN 1分子を発見され、マクロファージに感染したマイコバクテリアのサバイバルのメカニズムを明らかにされました。さらに近年では、CORONINシステムのTリンパ球を始めとした免疫ネットワークや神経系への役割に関する研究へと研究を拡大すると共に、CORONINシステムがマウスやヒトのみならず、アメーバの生態にまで広く及ぶことを発見しておられます。今回は、CORONINシステムの全容についてご講演頂きます。

日時: 平成26年5月12日(月)

午後4時30分～5時30分

場所: 東京大学 医学部2号館1階 小講堂

〒113-0033 文京区本郷7-3-1

連絡先: 東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター
分子病態医科学部門 (宮崎徹教授室)

03-5841-1436 (内線:21436) miya@m.u-tokyo.ac.jp